

都市再生整備計画

くまがや し ちゆうしん しがいち ちく だい き
熊谷市中心市街地地区(第3期)

埼玉県 熊谷市

令和6年3月

| 事業名 | 確認 |
|-------------------------|----|
| 都市構造再編集集中支援事業 | ■ |
| 都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金) | □ |
| 都市再生整備計画事業(防災・安全交付金) | □ |
| まちなかウォークアブル推進事業 | □ |

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

| | | | | | | | |
|-------|--------------------|------|--------------------|-----|-----------------|----|--------|
| 都道府県名 | 埼玉県 | 市町村名 | 熊谷市 | 地区名 | 熊谷市中心市街地地区(第3期) | 面積 | 164 ha |
| 計画期間 | 令和 6 年度 ~ 令和 10 年度 | 交付期間 | 令和 6 年度 ~ 令和 10 年度 | | | | |

目標
 大目標 埼玉県北部地域の中核都市として環境にやさしく、暮らしやすく、魅力ある中心市街地を目指す
 目標1 中心市街地地区に施設を集約し活用することで、中心市街地の交流人口の増加とにぎわい再生を目指す
 目標2 道路環境の改善等により、誰でも安全・快適に歩きたくなる道路環境の構築を目指す
 目標3 官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出を目指す

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)
 本市は平成17年及び平成19年の市町合併により、市域が159.8km²に拡大し、当時は人口20万人を超え埼玉県北部地域唯一の中核都市となったが、令和5年時点の人口は19.2万人で平成12年をピークに減少しており将来人口は令和27年に15万人と推計されている。人口減少の進行に伴い市税の減少が見込まれ、拡散したインフラや公共施設などの維持管理・更新に要する財源確保が課題となる。
 このような状況の中で立地適正化計画を作成し、居住誘導区域及び都市機能誘導区域を定め、持続可能な都市構造への取り組みを進める。
 熊谷駅を中心とした中心市街地において、子育て支援施設の整備や複合機能の有する施設の整備を行い、都市機能の拡散防止と中心市街地の公共・公益サービス機能の充実を図る。また、熊谷の顔となっている星川通りと熊谷駅から北にある市役所通りを目安に「滞在快適性等向上区域」と位置づけ、沿道において官民連携によるエリアマネジメントに取組み、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。
 このような取り組みを進めながら、立地適正化計画があげる持続可能な都市構造の構築を図る。

まちづくりの経緯及び現況
 本市では「第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画」において、「快適で暮らしやすいまち」を政策の一つにあげ、「熊谷市都市計画マスタープラン」では、地域特性に応じて役割を分担する4つの拠点を定め、重点的に取り組みを進めてきた。
 本地区は市の中央エリアに位置しており、JR上越・北陸(長野)新幹線、JR高崎線、秩父鉄道の鉄道3線が乗り入れる熊谷駅を中心とした都市機能が集約された「都市拠点」地区である。古くから広域における連携拠点としての整備が進められ、熊谷駅東地区市街地再開発事業による再開発ビルと熊谷駅東口駅前広場の整備など、埼玉県北部地域の拠点としてふさわしいまちを目指すべく、さまざまなまちづくりの取り組みが行われている。
 「熊谷市バリアフリー基本構想」(平成26年3月策定、令和4年3月改定)では、駅から生活関連施設までの経路についてバリアフリー整備を行っている。また、「熊谷市景観計画」(平成21年3月策定)では、熊谷駅周辺を「熊谷中心市街地にぎわい景観誘導地区」に選定し、先導的に景観形成に取り組む地区として、既存の景観資源の活用や新たな景観資源の創出により、にぎわいが感じられる景観形成を図っている。
 最近ではラグビーワールドカップ2019の開催都市となり、熊谷駅正面口駅前広場やティアラ21からニットモールの連絡歩道橋の整備等、歩行支援施設の事業を行い、観光客が賑わった。令和3年にはリーグワン所属のパナソニックワイルドナイツが本拠地を熊谷に移転し、今後益々のラグビータウンとしての活動の活発化、集客の増加が期待される。また、官民連携事業として、令和元年に自転車シェアリングの実証実験が行われたのち、令和3年から(株)ゴトーの運営によるワイルドナイツサイクルシェアリング事業が行われている。

課題
 ・人口減少に伴い、拡散したインフラや公共施設などの維持管理・更新に要する財源確保が難しくなることから、施設を集約し持続可能な都市の構築が求められる。
 ・空き店舗の増加、歩行者の通行量が減少していることから、空き店舗を活用した魅力や賑わいの向上を図り、また、歩行空間の快適性や景観を向上させ、歩行者が歩きたくなる、まちなみを形成することが求められる。

将来ビジョン(中長期)口
 ①第2次熊谷市総合振興計画 後期基本計画(2023-2027)(令和5年3月)
 ・魅力的な中心市街地を整備する
 ・暮らしやすく、個性あるまちづくりを推進する
 ・人にやさしいまちをつくる
 ②熊谷市都市計画マスタープラン(2022-2041)(令和4年3月)
 ・高次都市機能の維持・充実
 ・子育て支援施設の整備
 ・道路やオープンスペース等の活用促進
 ・空き店舗等の活用等による商業振興
 ・安全で美しい景観形成
 ・官民連携によるまちづくりの推進
 ・まちなか活性化に向けた担い手の育成
 ③熊谷市立地適正化計画(2022-2041)(令和4年3月)
 ・官民連携による公共施設再編に向けた取組の推進
 ・総合的な子育て支援施設の整備
 ・空き店舗活用などによる中心市街地の活性化の推進
 ・公的不動産活用による都市機能誘導の検討
 ・中心市街地の回遊性の向上
 ・都市の活性化に資する優良建築物等の整備
 ・にぎわい創出の担い手に対する環境整備
 ・空き家・空き地などのスポンジ化対策の推進

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>【中心市街地地区に施設を集約し活用することで、中心市街地の交流人口の増加とにぎわい再生を目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の統廃合を進め、交流拠点として、複合機能の有する施設の整備を行う。 施設の統廃合を進め、交流拠点として、子育て支援施設の整備を行う。 | <p>【基幹事業】(高次都市施設)第1中央生涯活動センター 【基幹事業】(高次都市施設)第2中央生涯活動センター 【基幹事業】(誘導施設)子育て支援・保健拠点施設</p> |
| <p>【道路環境の改善等により、誰でも安全・快適に歩きたくなる道路環境の構築を目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美しい都市空間を形成するため、景観デザインの調和と地域特性を配慮した道路整備を行う。 | <p>【基幹事業】(高質空間形成施設)星川通線舗装整備事業</p> |
| <p>【官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出を目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市の名勝である星溪園でにぎわいの場を提供する。 星川通り及び市役所通りで、歩行者にくつろぎの場を提供するため、実験的に歩道部等の公共空間でテーブル、椅子等を設置しオープンスペースを創出する。 星川通りの滞在空間を向上させるため、gutビル(民間所有)1階部のトイレを、誰もが使用できるように改修を行う。 にぎわいの場を創出するため、実験的に中央公園でキッチンカーを出店する。 | <p>【基幹事業】(滞在環境整備事業)星溪園交流場整備 【基幹事業】(滞在環境整備事業)星川通線交流場整備 【基幹事業】(滞在環境整備事業)星川gutビル公共トイレ設置整備 【基幹事業】(滞在環境整備事業)中央公園・市役所通交流場整備</p> |
| <p>その他</p> | |
| <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊谷のまちなかの賑わいと創出と、より一層の発展を目的に熊谷まちなか再生エリアプラットフォームが設立 熊谷まちなか再生エリアプラットフォームによる熊谷まちなか再生未来ビジョンの作成(令和5年3月) | |

熊谷市中心市街地地区(第3期)(埼玉県熊谷市) 現況図

